

令和4年12月12日
教育長答弁実録
（教育委員会）

（問）不登校支援について

教育長は常々、多様な学びの機会と学びの選択肢を創出し、全ての子ども達が成長できるよう果敢にチャレンジしていきたいと言っているが、今後の不登校支援への思いを伺う。

（答）

本県におきましては、令和元年度からスペシャルサポートルームを設置した取組を進める推進校を支援するなど、不登校の未然防止と不登校等児童生徒の社会的自立に向けた支援の強化・充実を図ってきているところでございます。

令和3年度の調査によりますと、スペシャルサポートルームを設置した取組を進める推進校21校のうち10校において、不登校児童生徒数が前年度以下となるとともに、県全体の増加率が30.0パーセントであるのに対し、推進校全体の増加率は13.9パーセントにとどまっているという結果も見られております。

令和4年度からは、来室による利用に加え、オンラインで利用できる機能を備えた、「SCHOOL“S”」を開設し、不登校等児童生徒の居場所であるとともに、学び、成長できる場としての充実を図っているところであり、11月末現在、154名が登録、1日平均で約40名が利用している状況でございます。

さらに、県内の全ての小中学校等から参加できるオンラインの学びプログラムやクラブ活動を、県内外を問わず、地域の資源などを活用して実施し、知的好奇心を喚起するとともに、社会とのつながりを促し、学び続ける力を育成する取組を進めているところでございます。

具体的には、国立科学博物館による「骨」をテーマとしたプログラム、県内の民間企業と連携したオンライン工場見学や熊本市教育委員会と共同でオンライン修学旅行などを実施してまいりました。

また、オンライン上で同じ興味・関心を持つ児童生徒が集って語り合う、イラストクラブや生き物クラブなどの活動を実施しております。

今後も、引き続き、全ての児童生徒が学びを止めない、そして、人や社会とのつながりを断つことなく、将来、自立して生きていけるよう、市町教育

委員会や学校としっかりと連携しながら取り組んでまいります。